ひろば

私のひとこと

卓球と我が人生

鈴木 キミ（上町）

卓球を続けて五十五年余――何の取り柄もない私、その私から健康を取ったら何も残るものはありません。

主人も、以前は私に「学生時代に、もっと勉強しておけばよかったのに」と言っていましたが、今では「やっぱり健康でよかったね」と話しております。

学生時代には、先生方や友達から「カラスの鳴かない日はあっても、五一じいさんが水車を回さない日がなかったように、キミちゃんがラケットを持たない日はないね」とよく言われました。その卓球によって鍛えられた精神力と健康が、今日まで七十年近い私の人生を支えてくれていたのです。

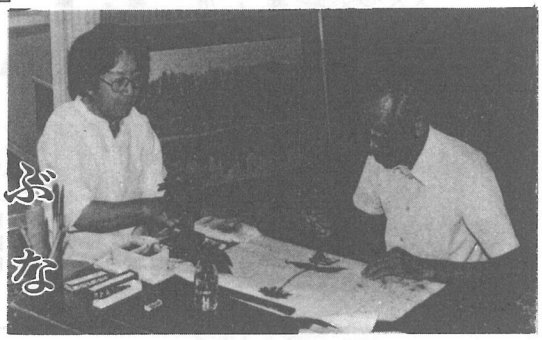
私の生涯に、卓球がこんなにも大きな役割を果たしてくれようとは、夢にも思いませんでした。

今、ママさんスポーツ・高齢者スポーツなどが大いに叫ばれています。ほんとうに嬉しいことです。明るい家庭づくりに、健康は最も大切なものと言えるのではないでしょうか。

子育てに一番大切な時期のお母さん方、妻でありその上に勤めを持つ主婦には、時間を生み出すのに障害があると思いますが、家庭や社会での縦横の共通理解を深め、スポーツが自分の人生に、そして明るい家庭づくり・社会づくりに大きく役立つよう念じて、ペンを置きます。

お手並拝見

絵ごころが結ぶ夫婦のきずな



土屋長八洋子さんご夫妻（姥山）

夫婦で共通の趣味をお持ちの土屋さんご夫妻。ご主人は、和紙に墨の濃淡やにじみで風物を描く「墨絵」。奥さんは、色紙に和紙をちぎって貼る「ちぎり絵」と、表現方法こそ違っても求める〝絵ごころ〟は同じとおっしゃいます。

「描き始めたらやり直しのきかない墨絵は、人生に通じるものがあります」――二年ほど前に公民館教室で墨絵を始め、翌年に県展に入選したほどの腕前のご主人。

「ちぎり絵を始めて六年ぐらい。前からやってみたかったんです」と語る奥さんは、公民館のちぎり絵教室の講師を勤めたこともある〝セミプロ級〟。

「絵は一生の趣味ですね」と口をそろえて語るご夫婦のアトリエは、できあがった作品でいっぱいでした。

俳壇

土屋　栗水

黒の絽の亡妻（つま）の着姿ふと浮び

成田　愫子

とうすみの泳ぐ草屋の通し土間

宇井　芝童

遠雷やぼそりと一語妻の愚痴

藤代　ゆう

羅（うすもの）やはや秋草の裾模様

津田　若菜

庭先に箒草植え才女住む

海保　きみ

絽の羽織悲しい事の多くして

向後　雅子

外目より羅暑し白重ね

鈴木　南知

一抹の寂しさ残し絽の羽織

鈴木　草庵

羅の起居端正を失なはず

若梅あやめ

雷鳴に干物取り込む妻の留守

老人ホーム句会から

飯田かつ代

寄り添えば風渡り来し萩の花

菊地　ハル

老ひの身の軽くはこべり秋の風

高橋　たつ

床の間に薄（すすき）を活けて月を待つ

並木　タヨ

すでに葉をこぼす柳や秋の風

渡辺　栄子

日も西に尾花のゆれる川原かな

菅沢　つね

雷止みて尾花がまねく渡し舟